

製品別利用規約

以下のリストは、特定の製品に適用される追加の利用条件を示す。各製品項目は、かかる製品に適用される1つまたは複数の脚注を示す。脚注は、本契約の条件を補足する。各脚注の定義はリストの後に記されている。注文関連ドキュメントで特に断りのない限り、エクステンション製品の利用条件は、対応する製品の利用条件に準拠する。廃止された製品には、当該製品の廃止日の時点で有効な製品別利用規約が適用される。マスター契約での定義に加え、以下の定義を製品別利用規約に適用する。

- 「認証」とは、ArcGIS Platformロケーションサービスへのアクセスを可能にするEsri提供のメカニズムをいう。セキュリティと認証ドキュメントを参照してください(認証メカニズムの現在のリストは<https://developers.arcgis.com/documentation/mapping-apis-and-services/security/>を参照)。

デスクトップ製品

- ArcGIS Desktop (Advanced、Standard、またはBasic) (26)
- ArcGIS Earth (20、65)
- ArcGIS Explorer Desktop (20)
- ArcGIS for AutoCAD (20)
- ArcGIS Pro (26)
- ArcReader (20)
- ArcGIS for Personal Use (3、26)

サーバー製品

- ArcGIS Enterprise
 - StandardまたはAdvanced (17、21、23、31)
 - Workgroup StandardまたはAdvanced (21、23、26、28、29、30)
 - ArcGIS GIS Server (StandardまたはAdvanced) (31)
 - ArcGIS GIS Server Basic (31、39)
 - ArcGIS GIS Server Workgroup (StandardまたはAdvanced) (26、28、29、30)
 - ArcGIS GIS Server Workgroup Basic (26、39)
 - ArcGIS Maritime (2)
- ArcGIS Enterpriseオプション機能サーバー：
 - ArcGIS Image Server、ArcGIS GeoEvent Server、ArcGIS GeoAnalytics Server、ArcGIS Notebook Server Standard、ArcGIS Mission Server、ArcGIS Workflow Manager Server (AdvancedまたはStandard)、およびArcGIS Knowledge (31)
- ArcGIS Enterprise Workgroup オプション機能サーバー：
 - ArcGIS Image Server、ArcGIS GeoEvent Server、ArcGIS GeoAnalytics Server、ArcGIS Notebook Server Standard、ArcGIS Mission Server、およびArcGIS Workflow Manager Server (AdvancedまたはStandard) (4)
- ArcGIS Business Analyst Enterprise (17、21、23、31)
- ArcGIS World Geocoder Basic (67)

Developer製品

- ArcGIS Developer Subscription
 - すべてのプラン (16、66、68、78、89、91、97、103)
 - Builder、Professional、Premium、またはEnterpriseプラン (24、26、77、92)
 - Essentialsプラン (90)
 - ArcGIS AppStudio Developer Edition (11、16、19)
 - ArcGIS Runtime SDK for Android、iOS、Java、macOS、.NET、またはQt (16、19)
 - ArcGIS Engine Developer KitおよびExtensions (16、19、22、26)
 - ArcGIS API for JavaScript (16、63、64)
 - ArcGIS CityEngine SDK および Procedural Runtime (105、19)
 - ArcGIS Maps SDK for Unity、またはUnreal Engine (16、62、64)
 - ArcGIS Maps SDK for Java、Kotlin、.NET、Qt、またはSwift (16、19)

- ArcGIS Maps SDK for JavaScript (16、63、64)
- ArcGIS Runtime Deployment License for Android、iOS、Java、Kotlin、macOS、.NET、Qt、またはSwift
 - Lite (15、62、64)
 - BasicまたはStandard (1、14、15、18)
 - Advanced (14、15、18)
- ArcGIS Engine Deployment License for Windows/LinuxおよびExtensions (15、22、26)
- Esri File Geodatabase API (47)

モバイル

- ArcGIS Navigator (14)

その他

- ArcGIS Hub (85)
- ArcGIS Indoors (86)
- ArcGIS Indoors Maps (99、100、101)
- ArcGIS Indoors Spaces (100、101)
- ArcGIS IPS(100、101)
- ArcGIS Insights (17)
- ArcGIS Survey123 (107、108)
- Site Scan for ArcGIS Operator ライセンス (32、33)
- ArcGIS GeoAnalytics Engine
 - コネクテッド、追加コア時間プラン (103)
 - ディスクネクテッドプラン (27、102)

Online Services

- ArcGIS Onlineのサブスクリプションは、複数の販売プログラムで入手できる。
 - 商業販売、エンタープライズ契約、および政府プログラム (23、66、68、69、70、77、82、96、103、106)
 - 教育プログラム (23、66、68、69、70、71、82、96、103、106)
 - 非営利プログラム (23、66、68、69、70、71、82、96、103、106)
- パブリックプラン (66、68、74、75、76、80、106)
以下のカテゴリに入るお客様にはこれらの追加権利がある。
 - 商業販売 (72)
 - エンタープライズ契約 (72)
 - 行政機関 (72)
 - NGO/NPO (72)
 - プレス/メディアプログラム (72)
 - 教育プログラム(71)
- ArcGIS AEC Project Delivery Subscription (83)
- ArcGIS Velocity (103)
- ArcGIS for Microsoft Planetary Computer—Pro Machine (103、104)
- ArcGIS Image Dedicated—Pro Machine (103、104)

脚注 :

1. ダイレクトコネクションによるエンタープライズジオデータベースの編集には使用できない。
2. ナビゲーションには使用しないものとする。
3. 個人の、非商用使用に対してのみ使用許諾される。
4. – 4コアサーバー1つに限定
 - 独立したマシンにインストール可能

5-10. 未使用

11. ArcGIS AppStudio Developer Editionで構築されたアプリケーションは、ArcGIS Runtime Deployment License の利用条件に従うものとする。

12. 未使用
13. 未使用
14. ナビゲーション目的での使用が許可される。
15. デプロイメント ライセンスとして使用が許諾される。
16. お客様はSDKまたはAPIを使用して付加価値アプリケーションを作成し、輸出規制で禁じられていない場所で使用するエンド ユーザーまたは第三者に対して、当該付加価値アプリケーションを配布およびライセンス付与できるものとする。
17. お客様は本製品に含まれるOracle Instant Clientライブラリまたはそのドキュメンテーションを再配布してはならない。Oracle は、お客様のOracle Instant Clientライブラリ利用に関してのみ、本契約の第三者受益者である。統一コンピューター情報取引法 (UCITA) は、お客様のOracle Instant Clientライブラリの使用には適用されない。
18. ライセンスストリングをライセンス有効化テクノロジーとして使用する場合、デプロイメント ライセンスは、ユーザー1人、デバイス1台、付加価値アプリケーション1つにつき1つ必要である。
19. ライセンスを、インターネットベースまたはサーバーベースの付加価値アプリケーションの開発に使用することはできない。
20. 再配布ライセンスとして使用が許諾される。
21. 指定ユーザー ライセンスの使用に関する詳細は、マスター契約<https://www.esri.com/en-us/legal/terms/full-master-agreement> を参照してください。
22. a. 1台のマシン上でArcGIS Engineアプリケーションを実行する権利を取得するためには、エンド ユーザーは、ArcGIS Engine for Windows/Linuxソフトウェアまたはその他のArcGIS Desktopソフトウェア (Basic, Standard, Advanced)のいずれかのライセンスを取得しなければならない。また、
b. ArcGIS Engine付加価値アプリケーションを実行する場合、ArcGIS Engine for Windows/LinuxエクステンションをArcGIS Desktopソフトウェアと組み合わせて使用してはならない。単独使用のユーザーは、当該エンド ユーザーのみが使用するマシン1台に複数のArcGIS Engine付加価値アプリケーションをインストールすることができる。
23. システム間通信
 - a. お客様は、Basicサービス ログインを使用して、ArcGIS EnterpriseもしくはArcGIS Onlineからお客様の組織内にある他のサードパーティ製エンタープライズ ビジネス システムに対して、一方向の読み取り専用の通信を行うことができる。お客様は、Esriが実際のサービス ログイン資格情報を実装するまで、Viewer 指定ユーザーの資格情報またはレベル1の指定ユーザーの資格情報をBasicサービス ログインのために使用できる。Basicサービス ログインのために使用される個別Viewer指定ユーザーの資格情報またはレベル1の指定ユーザーの資格情報は システム間の連携のみを目的として使用でき、指定ユーザーがシステムにアクセスするために使用することはできない。
 - b. お客様は、Standardサービス ログインを使用して、ArcGIS EnterpriseもしくはArcGIS Onlineとお客様の組織内にある他のサードパーティ製エンタープライズ ビジネス システム間で、双方方向の読み書き可能な通信を行うことができる。お客様は、Esriが実際のサービス ログイン資格情報を実装するまで、Editor (またはそれ以上の) 指定ユーザーの資格情報またはレベル2の指定ユーザーの資格情報をStandardサービス ログインのために使用できる。Standardサービス ログインのために使用されるEditor (またはそれ以上の) 指定ユーザーの資格情報またはレベル2の指定ユーザーの資格情報は システム間の連携のみを目的として使用でき、指定ユーザーがシステムにアクセスするために使用することはできない。
24. ソフトウェアは、プロトタイプ付加価値アプリケーションの開発、テスト、デモンストレーション、およびマップ キャッシュの作成のみを目的として使用できる。顧客は、付加価値アプリケーションとマップ キャッシュを、ArcGIS Enterpriseステージング サーバー ライセンスおよびデプロイメント サーバーライセンスで使用できる。ソフトウェアおよびデータは、Builder以上のプランを契約しているすべてのArcGIS Developer Subscription契約者が使用する目的で複数のマシンにインストールしてもよい。他のすべてのソフトウェアは、単独使用ライセンスとして使用が許諾される。
25. 未使用
26. ジオデータベースは、お客様のデータの10ギガバイトに制限される。

27. 第三者にサービスを提供して、収益を得るのに使用することはできない。
 28. ArcGIS Enterprise WorkgroupまたはArcGIS GIS Server Workgroupアプリケーション以外のアプリケーションの同時使用はエンド ユーザー10名に制限される。この制約事項には、ArcGIS Desktopソフトウェア、ArcGIS Engineソフトウェア、およびArcGIS Enterprise WorkgroupまたはArcGIS GIS Server Workgroupジオデータベースに直接接続するサードパーティ製アプリケーションの使用が含まれる。ウェブ アプリケーションからの接続数に制限はない。
 29. ソフトウェアには、サポート対象のバージョンのSQL Server Expressが必要である。サポートされるバージョンは、製品のシステム要件とともにEsriウェブサイトに掲載されている。
 30. お客様のデータの使用は、最大10ギガバイトに制限される。コンポーネントはすべて、1台のサーバーにインストールしなければならない。
 31. フェイルオーバー ライセンスが含まれる。
 32. このソフトウェアの使用には、ローンを操縦するためのパイロット免許 (例. FAA、EASA、など) は含まれない。
 33. お客様は、このソフトウェアにより収集または処理したお客様のコンテンツを保存するため、このソフトウェアで提供のオンラインストレージを使用することのみ可能とする。
- 34–38. 未使用
39. ArcGIS GIS Server BasicおよびArcGIS GIS Server Workgroup Basicでは、ArcGIS GIS Serverに含まれている編集機能は使用できない。
- 40–46. 未使用
47. お客様は、お客様のエンド ユーザーに対し、Esri File Geodatabase APIを使用する付加価値アプリケーションを開発および配布することができる。
- 48–61. 未使用
62. 付加価値アプリケーションは、他のEsri製品と併用しなければならないものとする。
 63. ウェブ デプロイメント用の付加価値アプリケーションは、他のEsri製品と併用しなければならないものとする。
 64. 付加価値アプリケーションと他のEsri製品を常に併用する場合に限り、付加価値アプリケーションとともに第三者の技術を使用できるものとする。
 65. 他のEsri製品とのみ併用できる。ArcGIS Earthと他のEsri製品を常に併用する場合に限り、ArcGIS Earthとともに第三者の技術も使用できるものとする。
 66. 有効な有料Online Servicesサブスクリプションを利用するお客様のみ、World Geocoding Serviceが作成した地理座標結果を保存することができる。
 67. ジオコードは、年間サブスクリプションにつき、2億5千万件に制限される。
 68. お客様は、Infographicsサービス経由でアクセス可能なデータを表示目的にのみ使用できるが、このサービスからいずれのデータも保存することはできない。
 69. お客様の組織における事業目的での使用が許可される。
 70. お客様の組織における開発およびテストの目的での使用が許可される。
 71. 教育機関における教育目的での使用が許可される。
 72. お客様の組織における事業目的での使用が許可される。
 73. 未使用
 74. 個人用途に利用できる。
75. 共有ツールを使用して公的に共有することによってのみ、お客様は第三者による付加価値アプリケーションの使用を許可することができる。お客様は、自らの業務上の使用を目的として付加価値アプリケーションを稼動させるために本サブスクリプションを使用することはできない。ただし、お客様が、教育目的に限定して付加価値アプリケーションを使用する教育機関、認定されたNGO/NPO組織、またはメディアあるいはプレス機関である場合を除く。
76. お客様は、プライベート グループの作成またはプライベート グループへの参加を許可されない。
 77. お客様は、第三者の ArcGIS Online または ArcGIS Enterprise 指定ユーザー ライセンスでのみ有効な付加価値アプリケーションを第三者に有料で頒布できる。
 78. 商用アプリデプロイメントライセンスが含まれる。

79. 未使用
80. 登録された教育機関の学生に対し、教育目的に使用する場合に限り、1つのサブスクリプションを複数の登録された学生で共有し、**Online Services**に直接アクセスすることができる。
81. 未使用
82. 特定の指定ユーザーのみが使用するワークフローを自動化しようとする場合に限り、当該指定ユーザーの資格情報をArcGIS API for Pythonの自動化スクリプトに組み込むことができる。
83. お客様は、お客様のクライアント(以下「クライアント」)ごとに独立したAEC Project Delivery Subscriptionを使用しなければならない。お客様は、(i) AEC Project Delivery Subscriptionをそのクライアントとプロジェクト作業で協働することのみを目的として使用し、(ii)お客様がクライアントのために遂行するプロジェクト作業で、クライアントが AEC Project Delivery Subscriptionにアクセスして協働できるように、AEC Project Delivery Subscriptionへの指定ユーザー アクセスをクライアントに提供できる。クライアントは、それ以外の目的で指定ユーザー ライセンスを使用することはできない。お客様は、クライアントによるこれらの利用条件の遵守について一切の責任を負い、プロジェクト終了時には、クライアントにAEC Project Delivery Subscriptionの使用を確実に停止させるものとする。
84. 未使用
85. ArcGIS Hubに付属のソフトウェアライセンスおよびサブスクリプションは、ArcGIS Hubが有効にしたコミュニケーションイニシアチブをサポートするためにのみ使用できる。お客様は、第三者に、コミュニケーション活動への参加のみを目的としてArcGIS Hubの指定ユーザーになることを許可できる。お客様は、従業員、代理店、コンサルタントまたは委託業者に、ArcGIS Hubからコミュニケーションイニシアチブを管理、構成、維持およびサポートすることのみを目的としてArcGIS Hubの指定ユーザーになることを許可できる。ArcGIS Hubに付属のソフトウェアライセンスおよびサブスクリプションの他の使用は許可しない。
86. お客様は、ArcGIS Indoorsに付属のソフトウェアライセンスおよびサブスクリプションを、ArcGIS Indoorsドキュメントで定義したArcGIS Indoorsの機能を有効にするためにのみ、使用できる。ArcGIS Indoorsに付属のソフトウェアライセンスおよびサブスクリプションの他の使用は許可しない。
87. 未使用
88. 未使用
89. お客様は、認証により ArcGIS Platform 位置サービスにアクセスする、収益を生む付加価値アプリケーションを、直接または販売経路を通じて、第三者に頒布できる。収益を生むすべての付加価値アプリケーションは、ArcGIS Platform 位置サービスへのアクセス時、認証を使用する必要がある。
90. お客様は、開発およびテスト目的で組織内に複数のサブスクリプションを有することができる。お客様は収益を生む、付加価値アプリケーション用に、組織内にサブスクリプションを1つのみ使用することができる。
91. アプリケーション移行—以下に関する付加価値アプリケーションを作成した開発者。
- クライアントのAPI (JavaScript 4.xとRuntime SDK (バージョンは問わない)、REST、Esriのオープンソースマッピングライブラリ、サポート対象の第三者オープンソースマッピングライブラリを含む) は、2022年4月30日までに、アプリケーションでArcGIS Platformの位置情報の使用が必要になる。
 - JavaScript 3.x APIは、2022年12月31日までに、アプリケーション内でArcGIS Platform位置情報の使用が必要になる。
92. お客様は開発内でプライベートグループを作成、またはプライベートグループに参加する、およびArcGIS Developer Subscriptionに含まれるArcGIS Online Organization Subscriptionをテストすることのみ許可される。
93. 未使用
94. 未使用
95. 未使用
96. お客様は、指定ユーザーによるインタラクティブ、非プログラマティックアクセスについて、ArcGIS Imageサービスを使用することができる。ArcGIS Imageサービスのプログラマティック使用 (例. バッチ分類、ディープラーニング等、または1回に10MBを超えるデータ量のエクスポート) は許可されない。

97. 第三者の付加価値アプリケーションでの使用にAPIキーを求められるお客様のエンドユーザーは、ArcGIS Developer Subscriptionから当該のAPIキーを生成する必要がある。ArcGIS Onlineアカウントから生成されたAPIキーは、このシナリオでは許可されない。
98. 未使用
99. ArcGIS Indoors Mapsに含まれるユーザータイプは、ArcGIS Indoors Maps、ArcGIS Indoors Spaces、およびArcGIS IPS用の製品ドキュメントで定義した機能を有効にするためのみにライセンス付与される。
100. お客様は、ArcGIS Indoors Maps、Spaces、およびArcGIS IPSと連携するために特別に作成された付加価値アプリケーションでの使用のためにのみ、ArcGIS Indoorsユーザータイプを使用できる。
101. ArcGIS Indoor Spacesライセンスには、Workspace ReservationsまたはSpace Plannerの使用が必要となる。
102. 各ディスコネクテッドプランは、1つの制作クラスターに限定する。
103. 注文関連ドキュメントまたはドキュメントに記載されるとおり、消費ベースモデルを通じて利用されるOnline Servicesまたはソフトウェア機能を含む場合がある。Online Servicesおよびソフトウェア機能には、それらに関連付けられた異なる消費単位がある（その例として、ArcGIS Onlineクレジット、コア時間、または容量）。割当または前払済の消費単位モデルを通じてOnline Servicesまたはソフトウェア機能にアクセスできるEsri製品の場合、消費ベースのOnline Servicesまたはソフトウェア機能を使用すると、Online Servicesまたはソフトウェアの使用に適用できる割当または前払済の消費単位数が減少する。Esriは、お客様が割当または前払済の消費単位を使い切る手前に、お客様に通知する。Esriは、合計割当または前払済数の消費率が100パーセントに達した場合、お客様によるOnline Servicesまたはソフトウェアの消費ベース機能へのアクセスを制限または一時停止する権利を留保する。お客様は、該当する消費ベースのOnline Servicesまたはソフトウェア機能を継続使用できるようにするために、必要に応じて追加単位を購入できる。お客様が追加単位を購入しない場合、お客様は、ArcGIS Onlineでのお客様のコンテンツの継続的なストレージに対して引き続き料金が発生するリスクを負担する。一部のOnline Servicesまたはソフトウェアでは、お客様は、消費ベース機能の超過料金を有効化できる。お客様が超過料金を有効化した場合、Esriは、未払い分を月額請求し、または登録されたクレジットカードに請求し、お客様はその時点のレートで生じた料金を支払う責任を負う。Esriは、お客様の支払い金額に滞納がある場合、お客様による該当する消費ベースのOnline Servicesまたはソフトウェア機能へのアクセスを制限または一時停止する権利を留保する。お客様が滞納額を支払い、消費ベース機能へのアクセス資金を支払うと、Esriは、お客様による当該消費ベース機能へのアクセスを速やかに復元する。
104. 仮想 Pro Machines にプレインストールされた ArcGIS Cloud Store コネクションファイル (ASC ファイル) は、他のデバイスにコピーまたはそれ以外で、転送することはできない。
105. お客様はSDKまたはAPIを使用して付加価値アプリケーションを作成し、輸出規制で禁じられていない場所で使用するエンド ユーザーに対して、当該付加価値アプリケーションを配布およびライセンス付与できるものとする。
106. お客様は、Standard Feature Data Storeを使用して、500GBを超えるフィーチャーデータストアを使用することはできない。お客様は、サブスクリプションで有効になっているストレージの上限を超えることはできない。
107. 画像検出または難読化機能を含む場合がある。お客様は、出力を確認し、技術により見落とされた可能性のある情報を手動で調整しなければならない。
108. お客様は、サードパーティのAPIを通じて提供され、また、サードパーティの条件およびプライバシーポリシーが適用される人工知能 (AI) 機能にアクセスおよび使用するには、オプトインをしなければならない。